

事務事業評価シート（評価対象年度：平成 30 年度）

1. 基本的事項【PLAN】

①事務事業名	図書館運営事業					②事業番号	7704
③事業類型	2. 法上(任意)事業			④開始年度	昭和 59 年度	⑤終了予定年度	年度 ○ 設定なし
⑥根拠法令等	○ 法令	○ 条例	○ 規則	要綱	○ 計画等	その他	法令等の名称 泉南市立図書館条例 他
⑦実施手法	○ 直営	全部委託	一部委託	補助・負担	その他		
⑧関連予算科目コード	款	9	項	5	目	9	細目 2
⑨担当部名	教育部			⑩担当課名	文化振興課		会計 一般会計

2. 事務事業の現状把握【DO】

〔1〕事務事業の目的・事業内容

(1)対象(誰、何に対して事業を行うのか)	対象指標(対象者数を表す指標)	単位
① 市民(市内在学、在勤者を含む)	① 人口	人
② 18歳以下の子ども	② 児童数(3/31現在)	人
(2)事業内容(具体的な事務事業の内容、どのような方法で実施しているか)	活動指標(活動の量を表す指標)	単位
図書館法に基づき、各種図書館サービスを提供する。 主な事業内容は、図書・視聴覚資料・雑誌・新聞・地域資料・郷土資料・行政資料、多言語資料等の幅広い図書館資料の収集と、求められる資料や情報の提供、予約・リクエストサービス、調査相談(レファレンス・サービス)、読書相談、自動車図書館の運営、学校・市民ボランティア等の団体支援、子育て世代へのサービス、高齢者・障害者サービス、各種行事や講座等の開催、各種ブックリストの発行等。 子どもの読書活動の推進に関する法律に基づき、平成30年3月に「第2次泉南市子ども読書活動推進計画」(平成30年度実施)を策定し、子どもの読書活動の環境整備を図る。	① 開館日数	日
	② 図書館登録者数(児童)	人
	③	
(3)意図(対象をどのような状態にしたいか、何をねらっているのか)	成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位
図書館資料や情報の収集と提供、調査相談、障害者・高齢者に対するサービスなどを通じて、市民の生涯学習活動や教養文化の向上を図る。 子どもが自主的な読書活動を行える環境を整備することで、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、豊かな想像力を身につけるようにすることで、子どもの健やかな成長に寄与することを目指す。	① 貸出冊数	冊
	② 子ども読書活動推進事業の参加者数	人
	③	
(4)結果(対象を意図する状態にすることで、何に結びつくか。上位施策との関連)	総合計画体系上の位置付け	
市民の読書及び図書館資料に関する要望に応え、市民が考え、学び、楽しみ、自己決定していくための多種多様な資料や情報を提供することで、知る自由を公的に保障し、地域の情報拠点としての役割を果たす。 その他の体系上の位置付け (1— 4— 2— 3):子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく。	政策(章)	1 すべての人が尊ばれ、その個性が発揮できるまち
	施策大(節)	4 だれもが、いつでもどこでも学べる生涯学習推進のまちをめざします
	施策中	2 生涯学習内容の充実
	施策小	2 地域情報拠点としての整備

〔2〕各種指標値、事業費の推移

	指標名	単位	H28実績	H29実績	H30実績	R1見込	R2目標	
対象指標①	人口	人	63,125	62,549	61,984	—	—	指標値の推移における 特殊要因などの説明
対象指標②	児童数(3/31現在)	人	11,746	11,363	11,004	—	—	
活動指標①	開館日数	日	288	288	288	285	—	
活動指標②	図書館登録者数(児童)	人	6,279	6,006	5,714	—	—	—
活動指標③								
成果指標①	貸出冊数	冊	374,626	356,557	345,911	—	—	
成果指標②	子ども読書活動推進事業の参加者数	人	6,657	5,399	5,416	—	—	事業費などの推移にお ける特殊要因などの説 明
成果指標③								
事業費	投入人員	人	3.16	3.14	2.99	2.99		
	任期付職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00		
	臨時職員	人	7.80	7.80	7.80	7.80		
	事業費	千円	38,454	37,967	37,219	37,219		
財源内訳	人件費(投入人員*単価)	千円	15,968	18,389	19,163	19,100		—
	直接事業費	千円	54,422	56,356	56,382	56,319		
	総事業費	千円	0	0	0	0		
	国庫支出金	千円	0	0	0	0		
財源内訳	府支出金	千円	16	16	16	30		
	受益者負担金	千円	456	456	599	541		
	その他特定財源	千円	53,950	55,884	55,767	55,748		
	一般財源	千円						

〔3〕事務事業開始の経緯、状況の変化、評価結果への対応

①この事業を開始したきっかけは何か。	昭和59年に、社会教育法、図書館法に基づき、図書館サービスを提供する施設として、文化ホールと併設で開館し、本事業を開始した。
②開始から現在までこの事務事業を取り巻く状況は、どのように変化したか。また、今後どのように変化していくと考えられるか。	少子高齢化社会の進展、市民ニーズの多様化・高度化に伴い、市民と協働した図書館づくり、関係各課や団体等と連携した効果的な運営と、子どもの読書環境の整備を積極的に展開していくことが、今後より一層求められていく。
③前年度の評価結果を受けて行った改革・改善の取組はあるか。	子ども読書活動推進事業では、大阪府立図書館の出前講座や、読み聞かせボランティア養成講座を開催。自動車図書館かしのき号による学校等への配達便も継続して行う。また大人対象では専門の講師による講座、さらに認知症サポーター養成講座を図書館を会場に開催するなど、継続し発展させた。自習室は大人から子どもまで利用できるように、通年開室を継続した。

3. 事務事業の評価【CHECK】

〔1〕目的妥当性(必要性)

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

〔1〕の評価

A

評価項目	評価及び理由・説明等	
①事務事業の意図すること(目的)は、上位施策(施策小)の達成に貢献しますか。	ア. する イ. ある程度 ウ. しない	市民の読書及び図書館資料に関する要望に応え、市民が考え、学び、楽しみ、自己決定していくための多種多様な資料・情報を提供することで、知る自由を公的に保障し、地域の情報拠点としての役割を果たす。
②税金を使って達成する目的ですか。 (市が関与する必要がありますか、市民(特に納税者)の納得が得られますか。民間に類似サービスはありませんか。)	ア. はい イ. ある程度 ウ. いいえ	生涯学習拠点の整備は、市の責務である。中でも図書館は、公共性、公平性、継続性という視点に立ち、資料や情報の提供をしており、収益性のない事業であり、民間ではサービスの向上を期待できない。
③対象範囲、単価、事業費規模は市民のニーズや社会環境に合っていますか。 (他団体と比較してどうですか。)	ア. 合っている イ. ある程度 ウ. いない	市民ニーズや学校等の団体のニーズは、多様化・高度化しており、限られた予算の中で創意工夫を凝らして対応している。
④事務事業を休止・廃止した場合、市民生活(あるいは上位施策)への影響はありますか、ある場合それは大きいですか。	ア. 影響がある イ. ある程度 ウ. ない	図書館サービスは、市民の生涯学習を支援するとともに、学校等の団体支援、子育て世代への支援、市民や地域の課題解決等に役立っており、サービスの廃止は、市民生活の質の低下をまねく。

〔2〕有効性

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

〔2〕の評価

A

⑤期待どりの成果が得られていますか。	ア. 得られている イ. ある程度 ウ. いない	市民や学校等団体の求めている資料や情報を迅速・確に提供している。
⑥今後事務事業を工夫することで成果向上の余地はありませんか。 (事務事業の成果指標をさらに伸ばすことができますか。)	ア. ある イ. ない	図書館電算システムの改修が可能であれば、利便性の向上が可能で、成果向上が見込める。 また、関係各課や団体、市民ボランティアとの連携体制の強化を図ることで、成果向上が見込める。
⑦庁内の他部署で、類似の目的を持つ事務事業はありませんか、それらと統廃合や連携を行うことで、より成果を向上できませんか。	ア. 類似なし イ. できる ウ. できない	図書館サービスを行う類似の組織、役割を果たすものはない。

〔3〕効率性

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

〔3〕の評価

A

⑧成果を下げずに事業を工夫してコスト(直接事業費＋人件費)を削減する手法はありませんか。 (業務改善、業務の委託化、委託業務内容の見直し、IT化などはできませんか。)	ア. ある イ. ない	本事業は、最小の人員、経費で行っている。
⑨受益者負担の適正化余地はありませんか。 (歳入確保はできませんか。)	ア. ある イ. ない	図書館法第17条の無料の原則規定があり、受益者負担の余地はない。

4. 総合評価

総合評価	評価(A～D)	個別評価の結果を踏まえて課題等を整理	A: 現状のまま事業を進めることが適当 B: 事業の進め方に改善が必要 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休止・廃止の検討が必要
	A	貸出冊数が減少しているのが課題。限られた予算の中で、団体サービスの拡充や自動車図書館の効果的な運用を図るなど、市民の身近な施設で図書館サービスを享受できるようにすること、また、第2次子ども読書活動推進計画に基づいた事業の拡充を図るため、関係機関や団体と連携した効果的な図書館運営が必要。	

5. 改革、改善案【ACTION】

<今後の方向性>

ア	ア. 現状のまま継続	イ. 見直しのうえで継続	ウ. 終了 (年まで)	エ. 休止 (年から)	オ. 廃止 (年から)
	<今後の展開方針> a. 重点化する(集中的なコスト投入) b. 手段を改善する(実施主体や実施手段を変える) c. 効率化する(コストを下げる) d. 簡素化する(規模を縮小する) e. 統合する(他の事務事業と統合する)				
①改革、改善の具体案、実施年度など		—			
②改革・改善を実現するうえで、解決すべき課題及び考えられるその解決策		—			